

こんにちは。きゅうしょくカンガルー！（奈良の学校給食を考える会）です。  
立春が2月3日になるのは124年ぶりだそうです。つまり、生まれてはじめて！  
私たちは、おいしい給食&ほんとうの食育をめざして活動しています。

このメルマガは、私たちの活動や奈良県内の給食をめぐる状況をお知らせしたく、  
今までの活動の中で連絡先を交換させていただいた方を中心にお送りしています。  
メルマガ解除をご希望の方は、お手数ですが、  
oishiikyusyoku@gmail.com まで解除希望の旨をお書き添えの上ご連絡ください。

■ ■ もくじ ■ ■

- 1 学校給食をオーガニックに変えるために！ 動画ご紹介
- 2 大野和興・天笠啓祐著『農と食の戦後史』

■ 1 ■ 学校給食をオーガニックに変えるために！ 動画ご紹介

1月21日、コープ自然派生産者消費者討論会が開催され、その動画が公開されていますのでご紹介します。全国に先立ち学校給食米100%有機化を実現した千葉県いすみ市の取り組みと、オーガニック給食が広がるフランス、イタリア、アメリカ、韓国など世界の事例が紹介されています。ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=xnUeP1aGd0M&t=4150s>

■ 2 ■ 大野和興・天笠啓祐著『農と食の戦後史』

2020年に出版された『農と食の戦後史』。敗戦からポスト・コロナまで、農と食の歴史が分かり易くまとめられていて参考になりましたので、ご紹介します。

敗戦直後はとにかく食べることが重要で、人口の半分を占めた農家が大きな存在感を持った時期でした。新しい憲法のもとでさまざまな主体的な運動体が登場する中で、1948年に農協全国組織が設立されます。農地改革、農協設立、改良普及制度は農村民民主化の三本柱でした。

1950年頃から農薬と農業機械が入り始めます。戦後、経済復興のための傾斜生産方式という経済政策で集中させた産業が、鉄と化学肥料でした。1952年には主要農作物種子法が制定され、農薬、機械、化学肥料を使った食糧増産にまい進して

いくこととなります。

戦後農業を大きく転換させたのは、1961年に施行された農業基本法より始まった基本法農政でした。基本法農政とはひと言でいうと「5つの化＝機械化、化学化、装置化、大規模化、単作化」です。所得倍増計画による高度経済成長と軌を一にして、農村は労働力を奪われ、機械化や化学化が進行しました。また、それに先立つ1960年の日米安保条約改定で「コメは自給するがそれ以外の穀物は米国からの輸入に頼る」という食糧政策をとったことから米麦二毛作が崩壊したこともあり、コメ＋兼業という形態が一般的になっていきました。

1970年、減反政策がはじまります。コメが余るようになった背景には、稲作技術の向上による収量増、コメ消費の減少、そして食管制度の行き詰まりがあります。食管制度とは、生産者からは高く買い、消費者には安く売り、その差額を国が補てんする二重価格制です。この制度で生産者には再生産を、消費者には当時の労賃で買える米価を保障していたのですが、国が赤字に耐えられなくなったのです。そして1970年代は、それまで農民の問題であった農薬の被害が、食べ物に蓄積するということで食の安全問題や環境問題など消費者の問題へと広がっていった時代でした。

1980年代は日米貿易交渉、UPOV条約加盟、GATTウルグアイ・ラウンドなど、グローバリゼーションが進められた時代でした。1995年にはWTO（世界貿易機関）設立、食管法廃止、1996年には遺伝子組み換え食品の日本での流通が始まります。2000年代に入ると、BSE牛パニックや大手食品企業による産地偽装事件を受けて食品安全基本法ができますが、その後も食品や表示の偽装事件は繰り返されています。偽装が繰り返される背景には景気の悪化があります。原価を切り詰めるなどの合理化が限界に達したときごまかしに走るのです。貧しさの連鎖が食の安全を脅かします。一方2001年には有機認証制度（有機JASマーク表示）が始まりますが、現在でも有機農家はまだ0.5%程度しかいない状況です。

2010年代は原発事故とその後の問題、TPPなどグローバリズムの問題、安保法制と改憲の動き、そしてアベノミクスという4つの問題が繋がって立ちはだかった時代でした。TPP交渉過程での規制緩和、農業特区や生命特許といった農業のビジネス化など、食の安全に対する状況は悪化しています。そして2020年、新型コロナウイルス禍で社会の底が抜けたように貧困と飢えが広がっています。

新型コロナウイルス感染拡大の要因はいくつもあると思いますが、地球規模で進められてきた環境破壊、そして経済のグローバル化が感染症を世界中に拡大しました。このことはバイオテクノロジーの応用が進み、生命体を遺伝子組み換えや

ゲノム編集で遺伝子操作して改造することが日常的になったことへの警告ともいえるのではないのでしょうか。これから農家と消費者が直接つながり取り組んできた、農と食を守る運動が真価を問われることになるでしょう。

-----

●来月もお楽しみに♪●

メルマガ発信元 : きゅうしょくカンガルー! (奈良の学校給食を考える会)

E-mail : oishiikyusyoku@gmail.com

facebook : <https://www.facebook.com/oishiikyusyoku>

事務局 : 生活協同組合コープ自然派奈良内 (奈良市今市町 40-1)

-----